

■京都大学で行われている環境教育の紹介 ～社会のための人材育成～

京都大学では、社会における環境保全活動のリーダーとなる人材の育成を行っています。ここでは、3つの研究拠点を紹介します。

COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域拠点研究」

本グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」では、先進国中心の経済発展モデルとは異なる、アジア・アフリカ地域の多様な自然環境と共生しながら社会の発展を目指す「持続型生存基盤パラダイム」の創出を試みています。このパラダイム創出に向けた研究を担うべき人材の育成は本拠点にとって重要な課題ですが、プログラム開始から3年を経て、その成果が次第に現れつつあります。

本拠点で行う人材育成の中心は、研究パラダイム形成の現場に博士後期課程の大学院生・ポストドク研究員・助教からなる若手研究者を主体的に参加させることにあります。まず博士後期課程の大学院生

については、21世紀COEプログラム「世界を先導する総合的地域研究拠点」においてアジア・アフリカ地域に設置した14カ所のフィールドステーションを継承・発展させる形で、積極的にフィールドワークを行う機会を作り、現場で物を見、現場から考えるという京都大学の伝統的な調査研究の姿勢を身につけさせています。学生の研究テーマには、現地社会に適した持続的な開発のあり方や、環境に関する在来知、生業と環境の動的な関係性などがあり、ここにも文理融合型の研究を目指す本拠点の方向性が現われているといえるでしょう。卒業生は研究者のみならず、国際機関に就職するものも少なくなく、中にはアフリカで野生動物保護の活動を行っ

ているものもいます。

またポストドク研究員や助教についても、グローバルな視野を持った文理融合型の人材を育てるため、積極的にフィールドワークを行うための仕組みはもちろん、国際シンポジウムを開催したり、先端的な研究や実践を行っている大学や機関に半年から数カ月派遣し、そこでの研究について学ばせたりもしています。さらに現在はインドネシアにおいて、地域に根ざした技術開発についての分野横断型の研究も進めています。そうした研究を通じてアジア・アフリカ地域出身の人材の育成も積極的に行っています。



インドネシアでの合同フィールド調査の様子